

ニュースレター

いりおもての森から

林野庁 九州森林管理局 指導普及課
西表森林環境保全ふれあいセンター
平成 22 年 10 月発行 No. 27 号



ミズガンピ

浦内川流域のオヒルギ枯損木(立ち枯れ)の調査

7月23日(金)、26日(月)の2日間、浦内川流域のオヒルギ枯損木箇所においてモニタリングを開始するための事前調査を行いました。

浦内川では数年前からオヒルギの枯損(立ち枯れ)が発生しており、今回の調査では3箇所での集団枯損を確認しました。

浦内川流域では数年前の台風襲来等によりかなり土砂の堆積が見られるようになったとの情報もあり、枯損木が最も多く確認された箇所では白砂の堆積が著しく、近年になってオヒルギの枯損が発生したものと推測されます。

当センターでは、被害面積の一番大きい箇所に調査地を設定して、立木と膝根の関係や地盤高を調査していくことによって土砂の堆積による枯損の因果関係を解明していく予定です。

今後も西表島における国有林内で、このような被害箇所や注意を必要とする箇所などありましたら情報の提供をお願いします。



白砂の堆積が激しい川岸



枯損木調査予定地



膝根の埋没調査

仲間川保全利用協定締結者が行うモニタリング調査を支援

9月6日(月)、船浦ニッパヤシ植物群落保護林のモニタリング調査を実施しました。

当日は、35株のニッパヤシを各株毎に葉数と葉長の測定を実施し、周辺の光環境、塩分濃度等の調査をしました。調査結果では前回調査のデータと大差なく順調に生育しているものと思われま。また、調査中に琉球大学の学生も訪れ、滅多に見られないオキナワアナジャコも現れました。



琉球大学の学生一行と

平成22年8月、9月期におけるヒナイ川・西田川の利用状況

ヒナイ川の利用状況調査を8月16日(月)と9月13日(月)に、西田川では8月27日(金)にそれぞれ実施しました。

ヒナイ川では、8月期はカヌーツアーが23組(ガイド含め136名)、レンタルツアーが1組(2名)、計24組の138名、9月期はカヌーツアーが17組(ガイド含め79名)、レンタルツアーが1組(2名)、計18組の81名の利用がありました。一方、西田川では、カヌーツアーのみの6組(ガイド含め37名)でした。

夏休み期間中の8月は、親子連れの入込みが多く、親子でカヌーを漕ぐ姿や滝壺で歓声を上げてはしゃぐ姿が見受けられました。

また、西田川沿いのオキナワウラジロガシの枝先には、日本一大きなドングリの実を確認することが出来ました。



サンガラの滝(西田川)

9月13日のヒナイ川は10時半過ぎから絶え間なく雨が降り続く生憎の天候となりましたが、東京、大阪からの若者が訪れる等8月に次ぐ賑わいとなりました。



ヒナイ川係留地(↑)
ピナイサーラの滝壺(↓)



仲良川のマングローブ林等の実態調査を実施

8月2日(月)、仲良川マングローブ林の実態調査等を行いました。

仲良川流域では、河口部を中心にマングローブ林が広がっており、仲間川、浦内川流域のマングローブ林に次ぐ広さを有すると言われていています。この仲良川でも仲間川や浦内川同様にマングローブ林の倒木被害が発生しているとの情報を受けモニタリング調査地設定に向けての実態調査を行いました。



すれ違う観光遊覧船



マングローブ林の立ち枯れ状況

仲良川の右岸側ではオヒルギの立ち枯れ箇所を、その反対側の左岸側では倒木箇所を確認し、それぞれに立ち枯れ調査区と生育状況等の調査区の設定の必要性を感じました。この仲良川流域は上流部に滝があり、また仲間川、浦内川流域と同様にマングローブ林が広がっていることから、近年、多くの観光客が訪れるようになってきました。

この日もガイドに伴われた観光客6組、約50名が遊覧船やカヌーで訪れていました。

この日もガイドに伴われた観光客6組、約50名が遊覧船やカヌーで訪れていました。

海岸林自然再生試験地の成長量調査を実施

9月15日(水)、海岸林自然再生試験地において自然再生状況を把握する成長量調査を実施しました。

試験調査は、外来種であるギンネム(ギンゴウカン)が侵入している海岸防潮林を、自然災害に強い在来植生の森林に再生させる道筋を付けるためのものです。在来種の成長状況は、樹種別の成長差が大きくなりつつあります。

9月18日(土)から19日(日)にかけて台風11号が西表島を通過し、9月21日(火)に被害状況調査を実施しました。試験地では倒木や枝葉が吹き飛ばされただけでなく、倒木や水浸しとなり壊滅に近い試験地も一部見られました。

しかしながら、在来木と植栽木の共生試験区は、枝葉は飛ばされていますが比較的健全な状態を保っており、樹勢回復を持ちながら今後の経過を観察していきます。



試験地内の在来種の成長量調査



マーレ浜1区 (H22.09.15 撮影)



マーレ浜1区 (H22.09.21 撮影)

漂流・漂着ゴミの実態調査 (8・9月期)

漂流・漂着ゴミの実態調査を8月3日(火)、9月2日(木)に実施しました。

8月、9月とも海岸林への漂着ゴミの量及び内容については大きな変化は見られず、マングローブに付着した漂着ゴミも大きな変化は見られませんでした。

しかし、9月18日(土)から19日(日)にかけて台風11号が西表島を通過し、9月21日(火)に被害調査を行ったところ、これまで海岸線に多く見られたペットボトルや発泡スチロール等の漂着ゴミは林内のより奥に入り込んでいるように感じました。



アダンの中に入り込んだ漂着ゴミ



台風前 (H22.09.02 撮影)



台風通過後 (H22.09.21 撮影)

台風 11 号、仲間川木道の浮棧橋を持ち上げる

9月18日(土)から19日(日)にかけて西表島を通過した台風11号は、色々な形で置き土産を残していました。

仲間川支流北船付川沿いに設置した木道では、川からの侵入路である浮棧橋が高潮と異常潮位により木道の手摺りの上に打ち上げられていました。また、木道上及び周辺のマングローブ林内等では倒木や幹折れが見られ強風の強さを物語っていました。

(後日、東部交通から「復旧した」との連絡を頂きました。ありがとうございました。)



木道上に打ち上がった浮棧橋



復旧後の浮棧橋

西表島の植物

ハスノハギリ

学名： *Hemandia nymphaefolia*.
科名：ハスノハギリ科
属名：ハスノハギリ属
地方名：ウシヌシタキ、ウシンダニキ
トウカナチキ



分布
国内では沖縄や小笠原等の暖かい地域に生育しています。

形態
海岸近くに生育し、樹高は20mにも達する常緑性の高木です。
葉は革質で光沢があり、無毛、葉の大きさは長さ10~30cm、幅8~20cm程度、葉柄は盾状につきます。
花は白色、実は黒く熟し、楕円形の球形をしています。

林野庁 九州森林管理局 指導普及課 西表森林環境保全ふれあいセンター
〒907-0004 沖縄県石垣市登野城 55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL : 0980-88-0747 FAX : 0980-83-7108
URL: <http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/huresen/huresentop.htm>